



H26.5月

## 水稲 栽培農家の皆様へ

適正な土壌（加里施肥等）、栽培管理で放射性セシウムの吸収抑制を図りましょう！！  
※土壌の加里含量が低いと、放射性セシウムを吸収しやすくなります。

このような条件では特に注意を！

- ①「コシヒカリ」等の少肥栽培
- ② 稲ワラをすき込んでいないほ場
- ③ 水稲単作（一毛作）
- ④ 堆肥を施用していないほ場
- ⑤ 砂質土壌

上記のほ場では、加里含量が低いことがありますので、特に裏面の栽培のポイントを確認し、施肥管理など継続して吸収抑制対策に努めましょう。

安全・安心な農産物の生産を！

# 栽培のポイント

## (1) 深耕

- ア 深耕を行い、作土中の放射性セシウム濃度を低くすることで、作物への吸収を抑える効果が期待できます。
- イ 18cmを目標としますが、作業機やほ場条件によって耕深確保が困難な場合も、できるだけ現状よりも深く耕してください。
- ウ 深く耕すことによりやせた下層土が混和されるので、堆肥や土壌改良資材を適正に施用するなど、地力の向上に努めてください。

水稻の生育初期の加里施用が、特に重要です！

## (2) 施肥管理(カリの施用)

- ア 作付け前: 土壌診断の結果などをもとに、交換性加里で25mg/100グラム以上になるように塩化カリで加里を補給した上で、基肥は品種に応じた施肥量を散布しましょう。
- イ 中間追肥: 出穂前40日頃を目安に、ケイ酸カリ(約30kg/10アール)または塩化カリ(約10kg/10アール)を施肥しましょう。

## (3) 穂肥

穂肥は、草丈や葉色等の生育状況に応じて、施用時期や施用量を判断し施用してください(窒素だけでなく、加里の補給にもなる)。

## (4) 収穫

収穫機の刈り取る高さを調節して、土壌の混入防止を図りましょう。また、極力稲わらをほ場にすき込むことで、加里の補給につながります。

問い合わせ先

西部農業事務所普及指導課

電話: 027-321-3600